

学会報告

失敗学会 第3回年次大会

高橋 祐一郎

近年になっても、多大な経済的損失を招いたり、人命を危うくする事故や失敗が相次いでいる。誰も事故や失敗を起こしたいと思っている者などいない。むしろ、事故や失敗を起こすまいと不断的な努力が求められ、またそのための対応をしていたはずであろう。にもかかわらず引き起こされ、または繰り返される失敗と、その社会的な影響の大きさは、現代に生きる人々に不安を感じさせている。

このような状況の中、「失敗に学ぶことがものごとの真の理解につながる」とのコンセプトを掲げ、過去の失敗の経験を、人文・社会科学から自然科学に至る幅広い視点で捉え、知識化することによって、失敗の真の原因を解明し、以後の失敗を未然に防いでいこうという趣旨で生まれたのが「失敗学」である。

本学会は2002年に設立され、失敗を学問として捉え、学ぶことを必要としている組織および個人で構成されている。2004年11月30日現在の会員数は1,114名である。このうち法人会員は47社61口で608名、個人会員が506名となっており、企業や団体の関心の高さがうかがえる。

本学会の第3回年次大会は、2004年12月13日、工学院大学・新宿キャンパスにおいて開催された。昨年の大会の際、小職の度肝を抜いた、当日の座席の位置までWeb上から指定できる参加確認のシステムは今回も実施されていた。このシステムは、発表をじっくり聴き入りたい会員だけでなく、仕事の都合等で途中の入退場を余儀なくされる会員からも、きわめて好評のようである。

本大会は、最初に会員数の推移や各種活動など、学会の現状が報告された。次いで、会員により「近代日本の失敗に学ぶ」として、当時の日本軍の行動と近代日本における失敗事例との対比から、日本人が同種の失敗を繰

り返してしまうことについての考察が報告された。次いで、インターネット・コミュニティに注目し、ネットゲームを通じて失敗知識を効果的に配布していくことを目的に設置された分科会「ゲームと失敗学分科会」についての活動報告が行われた。小職は以前この分科会に参加し、三択や×式の問題の作成を試みたことがあるが、誤答を創作することが実に難しく、思わず自動車運転免許の学科試験問題の作成担当者の苦勞を偲んだものであった。次いで、個人と組織の関係性から生じる組織行動の失敗要因を分析して解決策を探求する目的で設置された分科会「組織行動分科会」により、「JCO 臨界事故に見る組織行動の教訓」として、この事故に関し、ヒューマンファクターによる不具合に対する分析手法である「VTA法(Variation Tree Analysis)」および「なぜなぜ分析(Why Why Analysis)」を用いた分析結果が報告された。その後、昼食を挟み、会員により「大邱地下鉄放火事件(2003年)」および「中央線高架化工事(2003年)」として、わが国における過去の鉄道事故の教訓が生かされなかった理由に関する考察が報告された。次いで、ゲスト講演として、東京大学久保田耕平氏による「人間が気づかなかった生物間の関係」および同大学佐藤知正氏による「人とロボットとの新しい関係」が行われた。

大会の締めとして、本学会の会長である畑村洋太郎氏による講演「新潟中越地震による新幹線脱線事故に学ぶ」が行われた。当時、世間の関心を最大に集めていたこの事故について、会長は、マスコミがもたらす情報に頼って事故の原因を考察するべきではないとの信念から、自ら仮説を立てたうえで現場に赴き、直接情報を収集したという。現場経験の知識化を重要視する失敗学において、まさに鑑であると、講演を拝聴しながら感じたものであった。

本学会のURL(トップページ)は次のとおり。

<http://www.shippai.org/>

本大会のプログラムは次のURLに掲載。

<http://www.shippai.org/shippai/html/index.php?name=nenjikai>